Book Review 16-12 人物　＃前島密

『＃ゆうびんの父』（門井慶喜著）を読んでみた。著者は 2018 年、『銀河鉄道の父』で直木賞受賞。他に著書多数。

郵便制度を創設した前島密の生涯を描いた歴史小説と謳っているが、前半 5 分の 4 は幕末、維新の出来事や人物の動きが大半を占める。幕末史の復習になろう。そう思って読めば、500 頁も長くはない。前島密と勝海舟、大久保利通、大隈重信、渋沢栄一等の関係も知ることができて興味深い。後半 5 分の 1 で郵便制度を創設した内容が書かれている。

前島密は郵便制度の祖と呼ばれ、現在では一円切手の肖像にもなっている。前島密は農家の生まれで、誰の後ろ盾がなく母一人に育てられた。この母親が偉い。先見の明をもって息子を育て上げる。5 歳の息子に旅（高田城下から糸魚川まで 50 km以上の道程）をさせ、見聞を広めさせる。自分のことよりも学問好きの息子の意志を尊重して、迷う息子を可能性の広がる世界へ送り出す。11 歳の時に身一つで江戸に出て師を訪ね、旅を重ね、様々な知識を増やしてゆく。医師、船乗り、教師、更に長崎や函館、そして語学に堪能であることを活かして欧米世界への繋がりを作る。

前島密という名前は明治後に、威厳を持たそうとした明治の元老たちに追従して付けた名前だそうだ（本名は上野房五郎）。田舎の母から送られたはずの本を旅先で受け取ることができなったエピソードが郵便事業創設に繋がることになる。

ここで郵便トリヴィア。
郵便創業（「新式郵便」）は 1871 年（新暦 4 月 20 日）、東京大阪間で官営。
創業時の郵便ポストは「書状集箱」、「集信箱」等と呼ばれていた。
1873 年には全国 均一料金制が導入。
郵便ポストの正式名称は「郵便差出箱」。 初期のポストの色は黒。